

參考資料

I アンケート調査の集計・分析結果

1. 中学生・高校生

1. 実施概要

- ・調査対象者：市内の中学校・高校の生徒 2,775 人（定時制の高校生を除く）
- ・調査期間：平成 27 年 7 月 13 日～平成 27 年 7 月 17 日
- ・配布・回収：学校配布・回収
- ・回収結果：

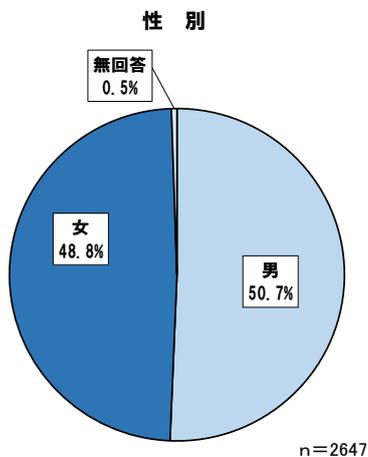
調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
「洲本市の地域創生」に関する 中学生・高校生アンケート調査	2,775	2,647	95.4%

2. 調査結果

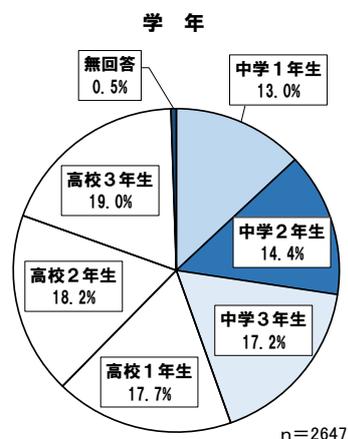
(1) 回答者自身について

【SA】: 単数回答
【MA】: 複数回答

問1. 性別【SA】



問2. 学年【SA】

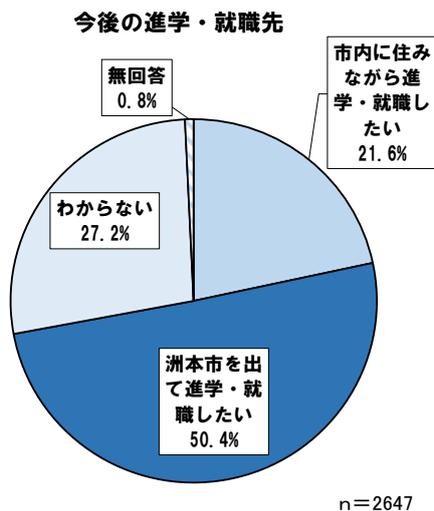


(2) 将来のことについて

問3. 今後の進学・就職先【SA】

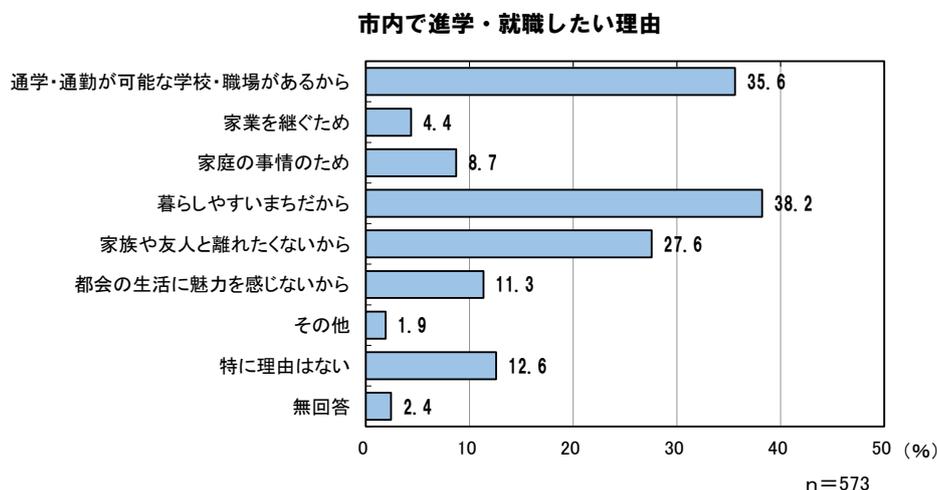
○：単純集計コメント
●：クロス集計コメント

- 「洲本市を出て進学・就職したい」が50.4%と過半数となっています。
- 中学生では、2年生と3年生の女性で「洲本市を出て進学・就職したい」、それ以外では「わからない」が最も多くなっています。
- 高校生では、男女ともにすべての学年で「洲本市を出て進学・就職したい」が最も多く、過半数となっています。



問3-1. 市内で進学・就職したい理由(市内に住みながら進学・就職したい方限定)【MA】

- 「暮らしやすいまちだから」が38.2で最も多く、次いで「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」が35.6%、「家族や友人と離れたくないから」が27.6%となっています。
- 中学生では、1年生の女性で「家族や友人と離れたくないから」と、3年生の男性で「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」が最も多く、過半数となっています。
- 高校生では、2年生の女性で「暮らしやすいまちだから」が最も多く、過半数となっています。



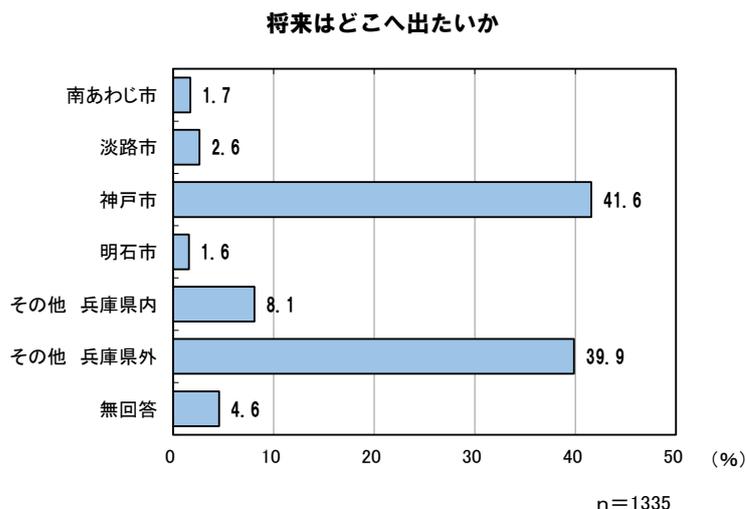
問3-2. 将来は、どこへ出たいのか。(洲本市を出て、進学・就職したい方限定)【SA】

○「神戸市」が41.6%で最も多く、次いで「その他 兵庫県外」が39.9%となっています。

○「その他 兵庫県外」では、大阪府が166人で最も多く、次に東京都が70人で、大都市へ出たいと考えている中高生が多くなっています。

●中学生では、3年生の女性で「その他 兵庫県外」、それ以外では「神戸市」が最も多くなっています。

●高校生では、1年生の男性で「神戸市」、それ以外では「その他 兵庫県外」が最も多くなっています。



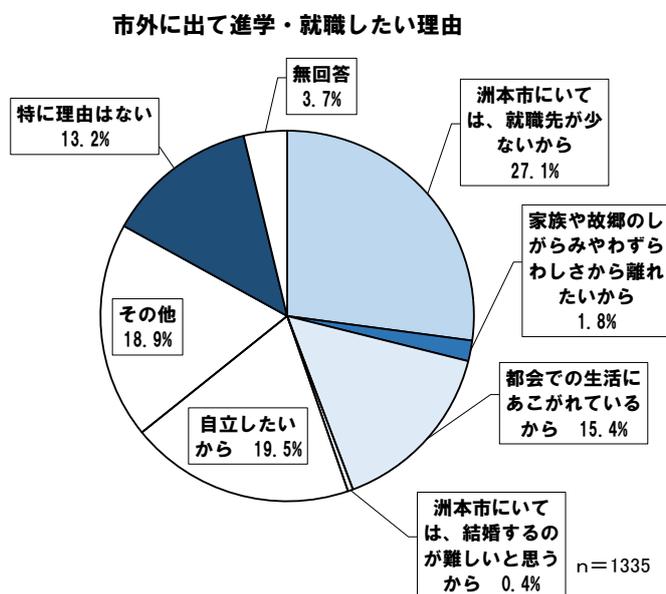
問3-3. 市外に出て、進学・就職したい理由

(洲本市を出て、進学・就職したい方限定)【SA】

○「洲本市においては、就職先が少ないから」が27.1%で最も多く、次いで「自立したいから」が19.5%となっています。

●中学生では、1年生の女性で「自立したいから」、2年生の男性で「その他」、3年生の女性で「都会での生活にあこがれているから」、それ以外では「洲本市においては、就職先が少ないから」が最も多くなっています。

●高校生では、2年生の女性で「その他」、それ以外では「洲本市においては、就職先が少ないから」が最も多くなっています。

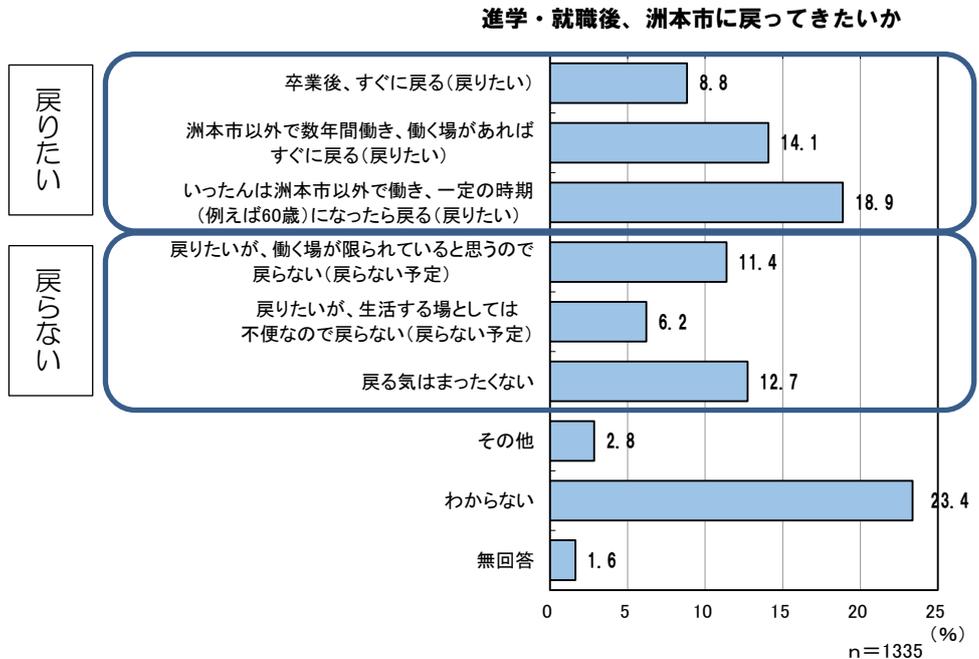


問3-4. 進学・就職後、洲本市に戻ってきたいか

(洲本市を出て、進学・就職したい方限定)【SA】

○「卒業後、すぐに戻る(戻りたい)」8.8%と「洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)」14.1%、「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば60歳)になったら戻る(戻りたい)」18.9%を合わせると41.8%が『戻りたい』となっています。

○「戻りたいが、働く場が限られていると思うので戻らない(戻らない予定)」11.4%と「戻りたいが、生活する場としては不便なので戻らない(戻らない予定)」6.2%、「戻る気はまったくない」12.7%を合わせると30.3%が『戻らない』となっています。

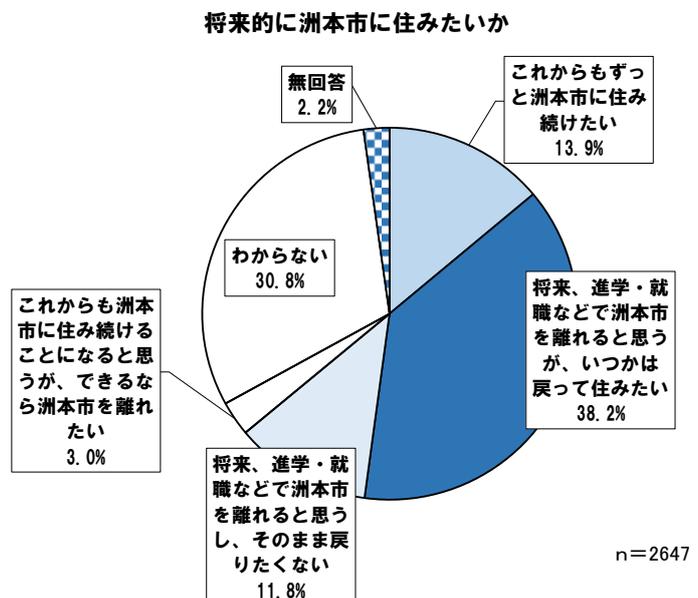


●高校生3年生の男性で『戻らない』が『戻りたい』よりわずかに多くなっています。それ以外では『戻りたい』が『戻らない』より多くなっています。

問4. 将来的に洲本市に住みたいか【SA】

○「これからもずっと洲本市に住み続けたい」13.9%と「将来、進学・就職などで洲本市を離れると思うが、いつかは戻って住みたい」38.2%を合わせると52.1%は定住意向があります。

●中学生の定住意向は過半数を占め、高校生の定住意向は4割以上となっています。「わからない」と回答した方が中学生、高校生ともに3割程度います。



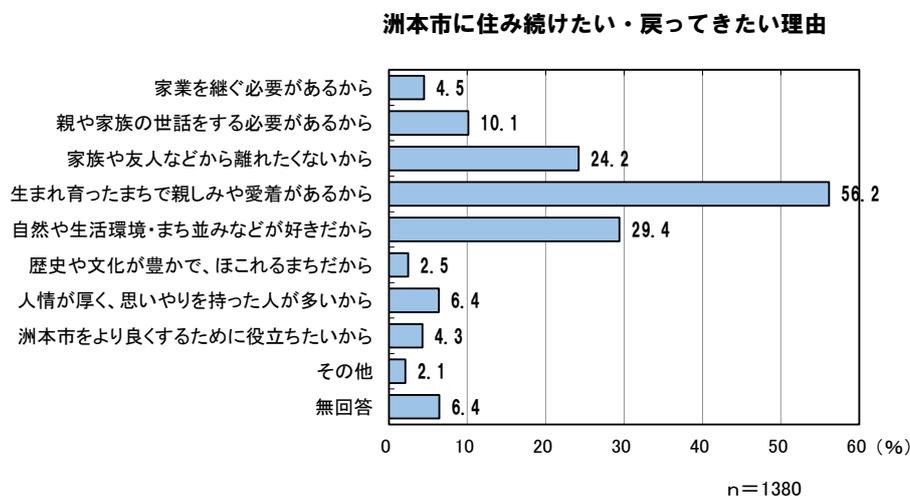
問4-1. 洲本市に住み続けたい・戻ってきたい理由

(洲本市に住み続けたい・戻ってきたい方限定)【MA】

○「生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから」が56.2%で過半数となっています。

●中学生、高校生とも

に「生まれ育ったまちで親しみや愛着があるから」が最も多くなっており、高校生では過半数となっています。



問4-2. 洲本市に戻りたくない・離れたい理由

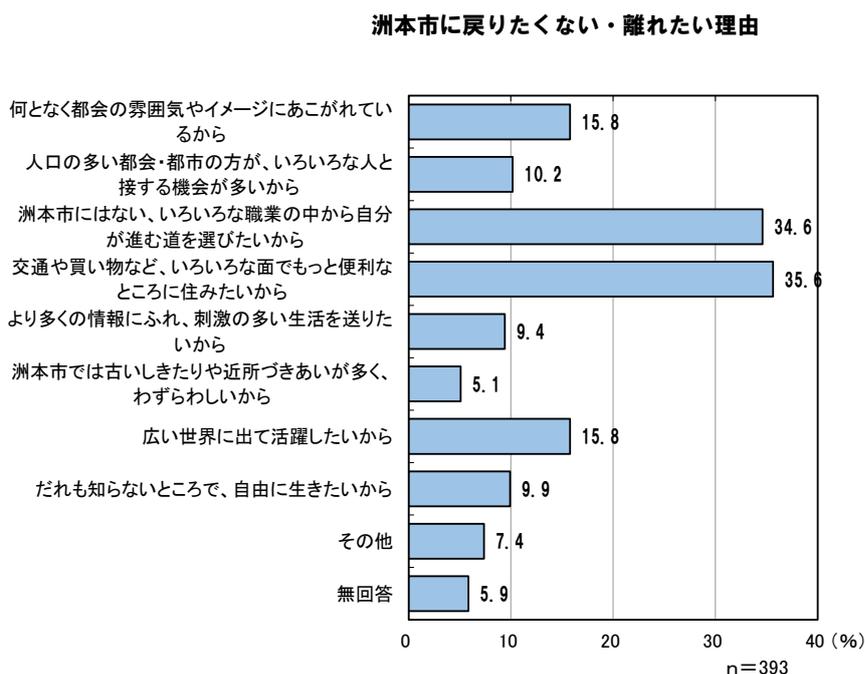
(洲本市に戻りたくない・離れたい方限定)【MA】

○「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なおところに住みたいから」が35.6%、「洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから」が34.6%となっており、この2つの理由が突出しています。

●中学生では、1～2年生の男性で「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なおところに住みたいから」、それ以外では「洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから」が最も多くなっています。

●高校生では、1年生の男性

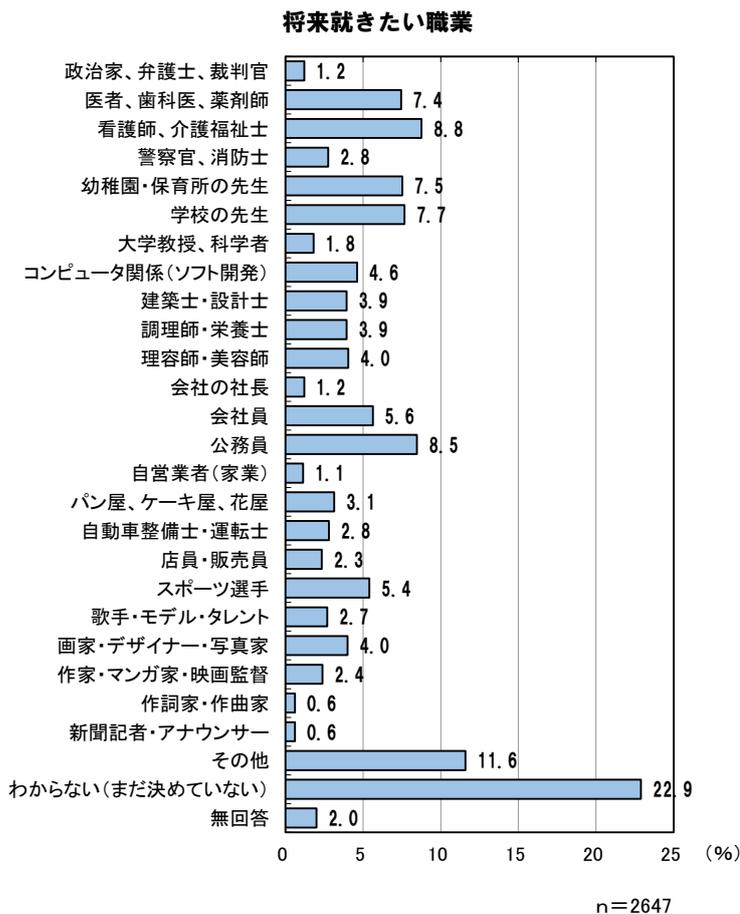
と3年生の女子で「洲本市にはない、いろいろな職業の中から自分が進む道を選びたいから」、それ以外では「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なおところに住みたいから」が最も多くなっています。



問5. 将来どのような職業につきたいか【MA】

○「わからない（まだ決めていない）」が22.9%で最も多くなっています。

●中学2～3年生の女性で「幼稚園・保育所の先生」、高校3年生の女性で「その他」、それ以外では「わからない（まだ決めていない）」が最も多くなっています。

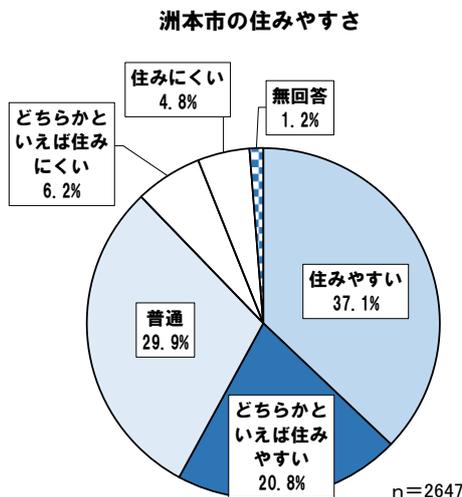


(3) 洲本市について

問6. 洲本市の住みやすさ【SA】

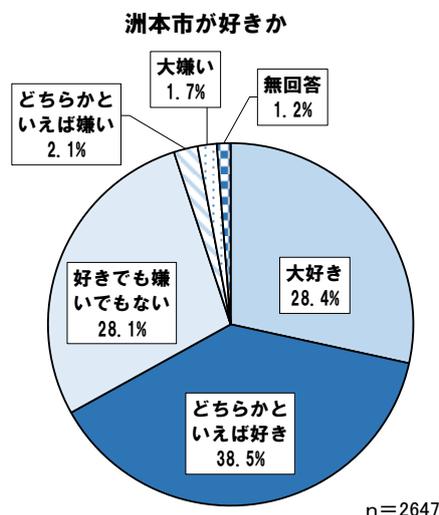
○「住みやすい」37.1%と「どちらかといえば住みやすい」20.8%を合わせると57.9%が『住みやすい』と感じています。

●中学生、高校生ともに『住みやすい』と感じています。高校3年生の男性で「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」を合わせた『住みにくい』が2割以上で、他に比べると多くなっています。



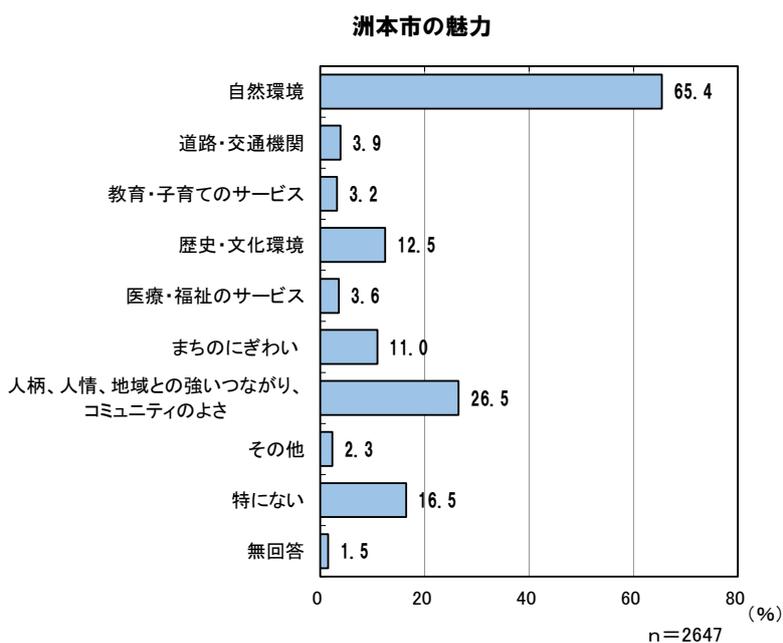
問7. 洲本市が好きか【SA】

- 「大好き」28.4%と「どちらかといえば好き」38.5%を合わせると66.9%が『好き』となっています。
- 中学生、高校生ともに『好き』が、「どちらかといえば嫌い」と「大嫌い」を合わせた『嫌い』より多くなっています。高校3年生の男性で『嫌い』が他に比べると多くなっています。



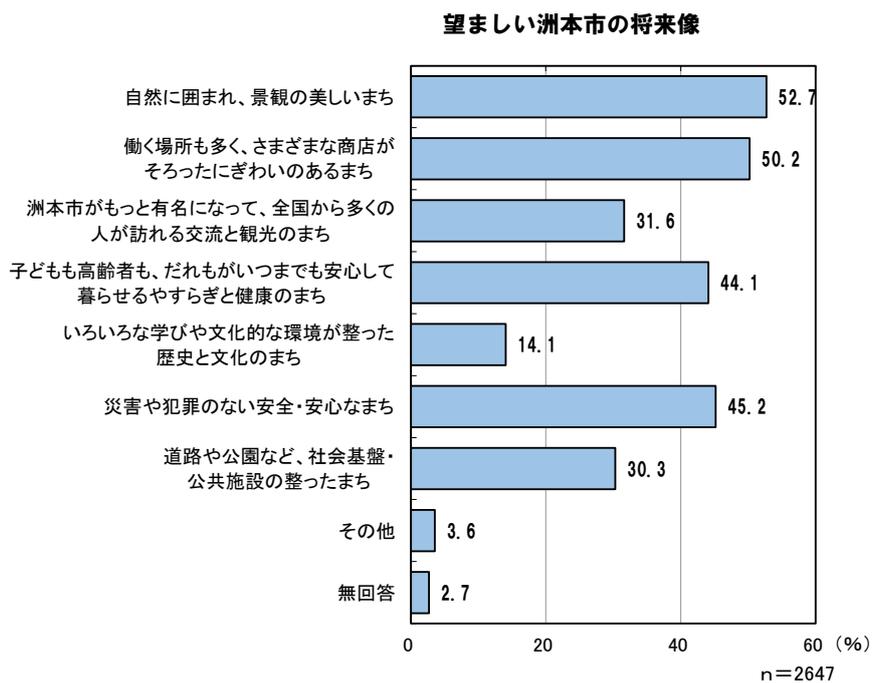
問8. 洲本市の魅力【MA】

- 「自然環境」が65.4%で最も多く、次いで「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」が26.5%となっています。
- 中学生、高校生ともに「自然環境」が最も多くなっています。
- 中学生で「歴史・文化環境」が高校生に比べると多くなっています。



問9. 望ましい洲本市の将来像【MA】

- 「自然に囲まれ、景観の美しいまち」が52.7%で最も多く、次いで「働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち」が50.2%となっています。
- 中学3年生～高校3年生の女性で「働く場所も多く、さまざまな商店がそろったにぎわいのあるまち」が多くなっています。
- すべての学年で、「子どもも高齢者も、だれもがいつまでも安心して暮らせるやすらぎと健康のまち」と回答した方の割合が、男性より女性の方が多くなっています。



問10. 人口減少に歯止めをかけるため、洲本市が進めるべきことに対する自由意見

○分野別の主な意見（複数意見）は、次の通りです。

（雇用）

- ・働ける場所を作る
- ・仕事の種類を増やす

（農業）

- ・農業をする人を増やす

（商店街）

- ・商店街をにぎやかにする（毎週イベントを開催する）
- ・若い人向けの店を増やす
- ・夜店をする
- ・シャッター店をなくす

（PR）

- ・洲本のもの（例：名産品）をもっと売り出す
- ・洲本市のよいところをPRする
- ・優しい田舎の味を全国に伝える
- ・SNSを駆使してPRする
- ・ギネス（ブック）に載るようなすごいことをする
- ・「海」のイメージが強いのでそこをPRする
- ・関東（というか東京）で流れるTV（番組・ニュース）を作ってほしい
- ・スポーツなどの合宿を増やす（何かの競技で有名になれば）

（観光（名所））

- ・観光スポットを増やす
- ・ミニ観光名所をつくる（例：花でキャラクターを描く）
- ・さまざまな「まつり」を行う
- ・ツアーを増やす（例：素晴らしい歴史をわかりやすく紹介する、伝統的なものを作っている工場などを回る、おいしい食材を使った料理）
- ・冬にいろんなところでイルミネーションを灯す

（自然環境）

- ・自然を大切にする
- ・ホタルやタマネギなど、田舎らしさを生かす

（娯楽施設）

- ・家族で楽しめるレジャー施設やアミューズメント（娯楽）施設をつくる
（例：遊園地、水族館、映画館）

- ・ショッピングモールをつくる

(公園整備)

- ・大勢の人が遊べる広い公園や施設を作る

(空き家)

- ・空き家を改装して安く住んでもらう

(交通)

- ・バス料金を引き下げる
- ・高速道路の通行料金を安くする
- ・駐車場を増やす

(出会い機会)

- ・婚活を積極的に行う

(子育て支援)

- ・子育てのサービスを多くして、女性が産後復帰できる場を確保する
- ・子どもがいても、不利にならないような環境をつくる
- ・子どもの遊び場をつくる
- ・自然を生かした遊びなどを取り入れる

(安全・安心・健康)

- ・街灯をたくさんつけて明るくしてほしい
- ・安全で健康なまちをつくる
- ・医療サービスを充実させる

(お年寄り)

- ・もっと社会福祉を充実させる
- ・障害のある人や老人を優先する

(市民顕彰・つながり)

- ・市民がすごいことをすれば、もっと表彰とかしてほしい
- ・もっと洲本に愛着を持ってもらう
- ・人とのコミュニケーションを大事にする

(その他)

- ・洲本市として、何か一つ強み（武器）を作って、それを生かしてほしい
- ・旅行に来た人がいいなと思えるまちにする
- ・人口減少していない島などの方法を参考にしていすべき

2. 一般市民

1. 実施概要

- ・調査対象者：市内在住の18歳～80歳までの男女 各1,000人(基準日：7月1日)
- ・調査期間：平成27年8月6日～平成27年8月20日
- ・配布・回収：ともに郵送
- ・回収結果：

調査名	配布数	有効回収数	有効回収率
「洲本市の地域創生」に関するアンケート調査	2,000	677	33.9%

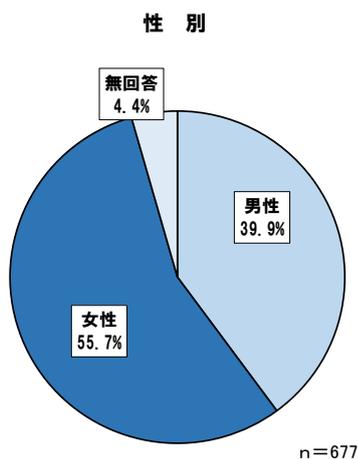
2. 調査結果

(1) 回答者自身について

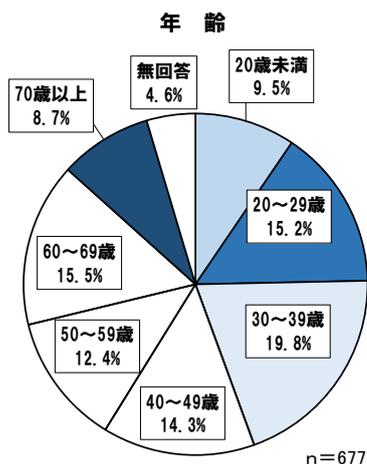
【SA】:単数回答

【MA】:複数回答

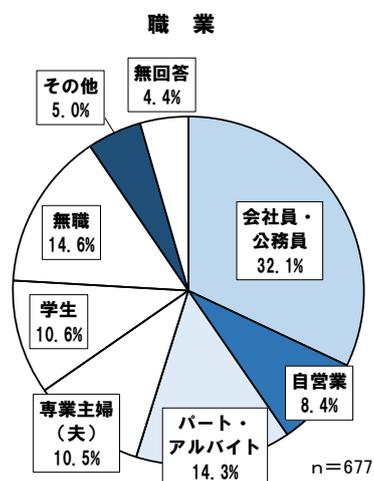
①性別【SA】



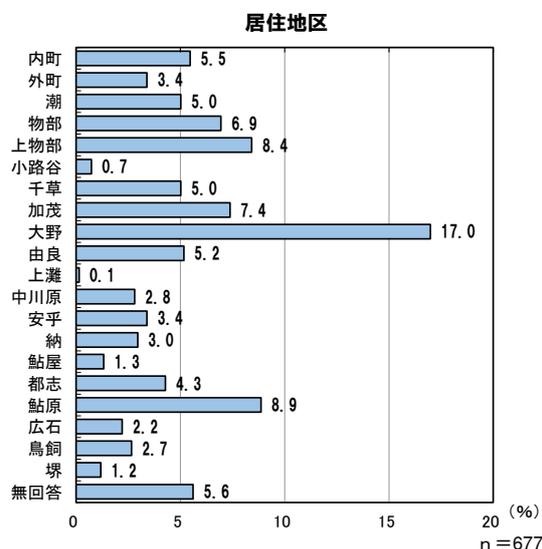
②年齢【SA】



③職業【SA】



④居住地区【SA】

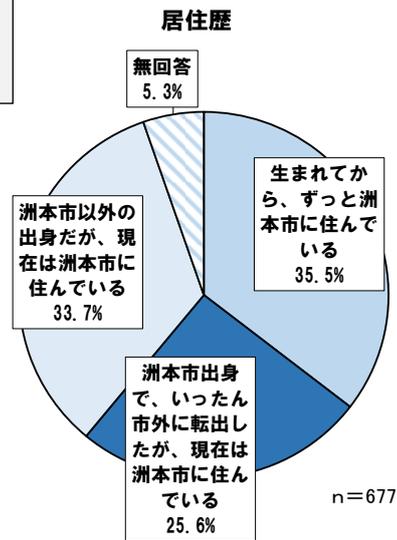


(2) 洲本市について

問1. 居住歴【SA】

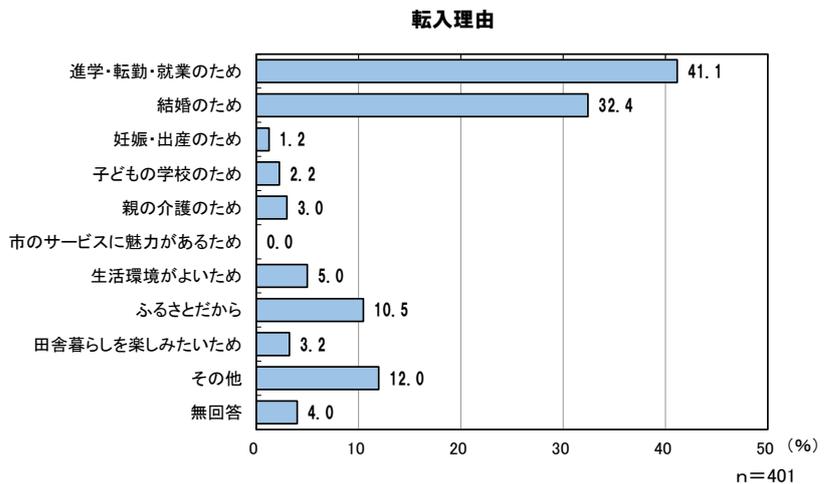
○：単純集計コメント
●：クロス集計コメント

- 「生まれてから、ずっと洲本市に住んでいる」が35.5%で最も多くなっています。
- 性別の“女性”と年齢別の“30～39歳”、“40～49歳”、“60～69歳”で「洲本市以外出身だが、現在は洲本市に住んでいる」が最も多くなっています。



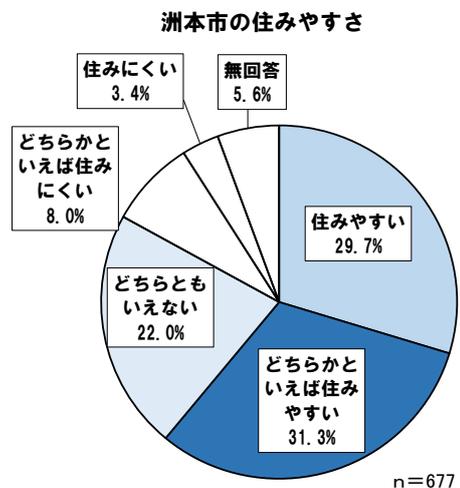
問1-1. 転入してきた理由(一度市外に転出した方、洲本市以外出身の方限定)【MA】

- 「進学・転勤・就業のため」が41.1%で最も多く、次いで「結婚のため」が32.4%となっています。
- 性別の“男性”と年齢別の20～49歳では「進学・転勤・就業のため」、性別の“女性”と年齢別の50歳以上では「結婚のため」が最も多くなっています。



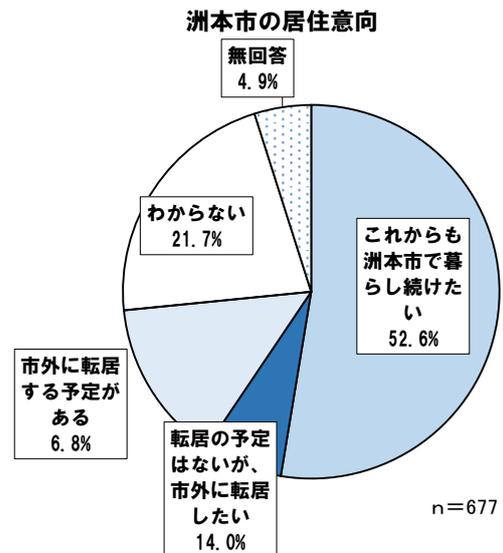
問2. 洲本市の住みやすさ【SA】

- 「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせると61.0%、「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」を合わせると11.4%となっており、肯定的評価が高くなっています。
- 性別、年齢別ともに、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた肯定的評価が過半数となっています。



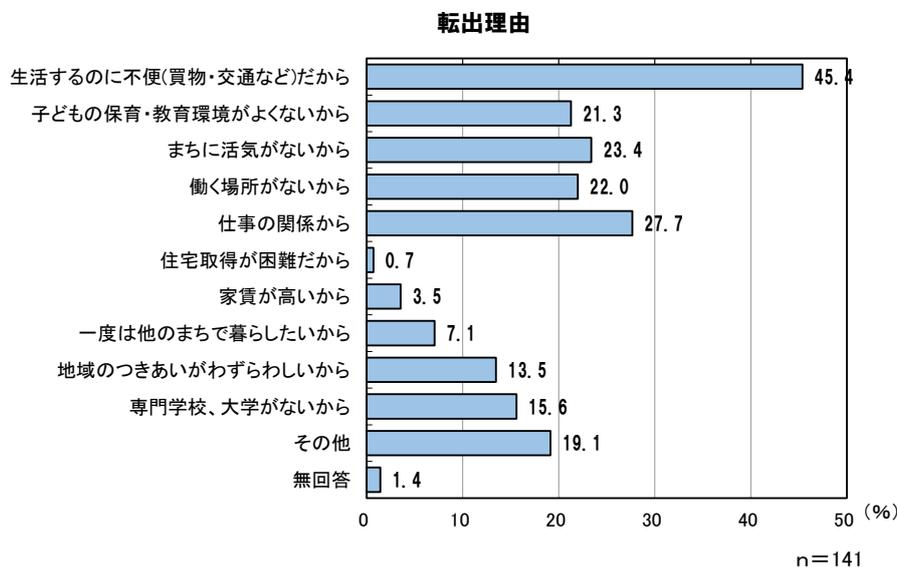
問3. 洲本市の居留意向【SA】

- 「これからも洲本市に住み続けたい」が 52.6% と過半数となっています。
- 年齢別にみると、“20 歳未満”で「わからない」が最も多くなっています。他の年齢では「これからも洲本市に住み続けたい」が最も多くなっており、年齢があがるにつれて住み続けたい方の割合が多くなっています。



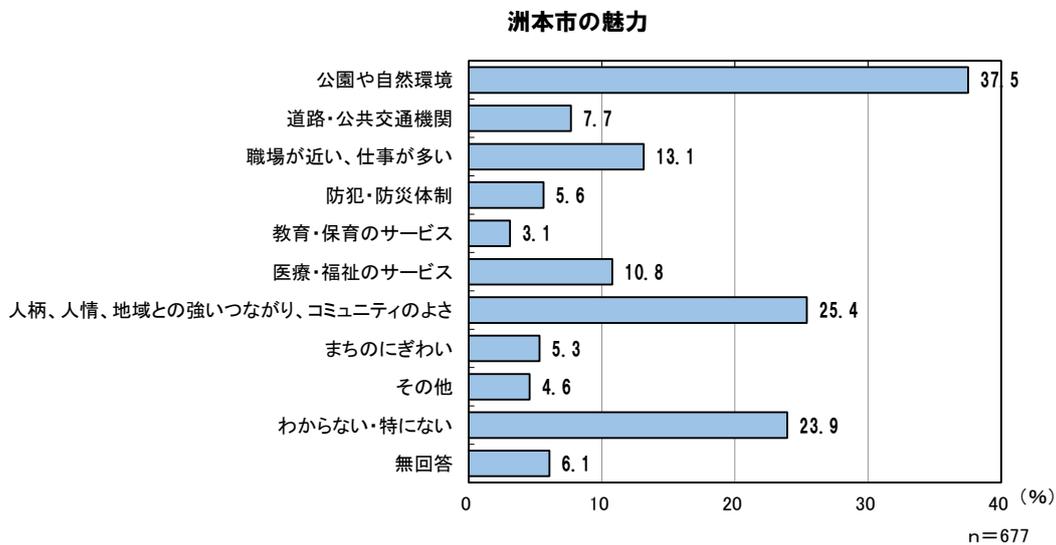
問3-1. 引っ越しする理由(引っ越し予定がある、引っ越したい方限定)【MA】

- 「生活するのに不便（買物・交通等）だから」が 45.4%で最も多く、次いで「仕事の関係から」が 27.7%となっています。
- 年齢別にみると、“20 歳未満”で「専門学校、大学がないから」、「20～29 歳」で「仕事の関係から」、30 歳以上で「生活するのに不便（買物・交通等）だから」が最も多くなっています。



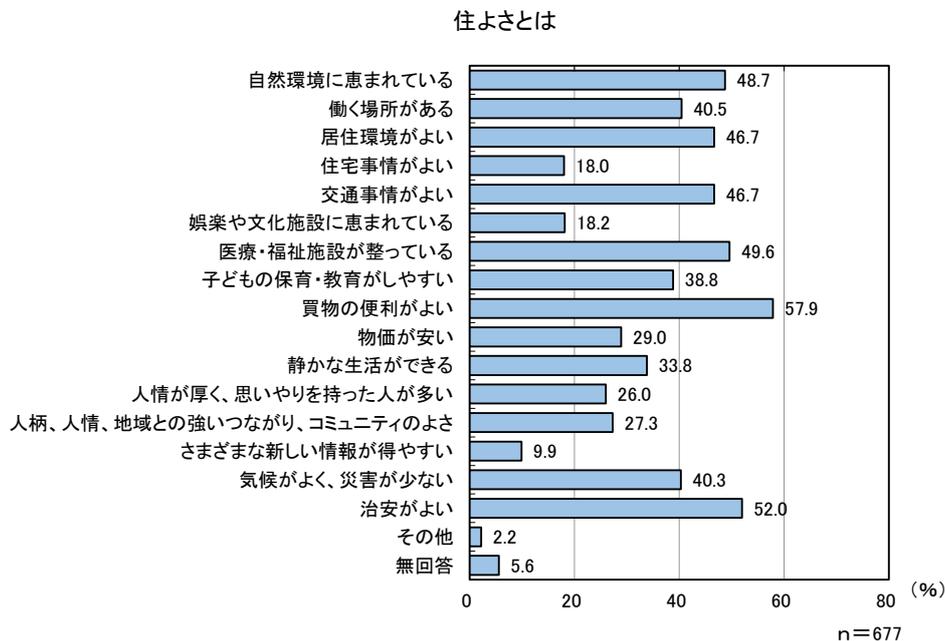
問4. 洲本市の魅力【MA】

- 「公園や自然環境」が37.5%で最も多く、次いで「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」が25.4%となっています。
- 年齢別にみると、70歳以上で「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」、他の年齢で「公園や自然環境」が最も多くなっています。



問5. 住よさとは【MA】

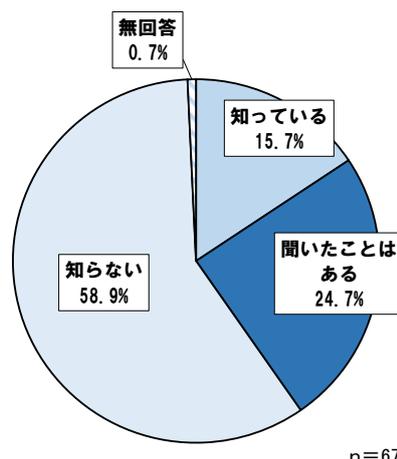
- 「買物の便利がよい」が57.9%で最も多く、次いで「治安がよい」が52.0%、「医療・福祉施設が整っている」が49.6%となっています。
- 性別にみると、“男性”では「買物の便利がよい」と「治安がよい」、「女性”では「買物の便利がよい」が最も多くなっています。
- 年齢別にみると“20歳未満”で「治安がよい」、「70歳以上”で「自然環境に恵まれている」「人柄、人情、地域との強いつながり、コミュニティのよさ」「治安がよい」、他の年齢で「買物の便利がよい」が最も多くなっています。



問6. 洲本市の人口推計結果の認知度【SA】

- 「知らない」が58.9%で最も多く、次いで「聞いたことはある」が24.7%、「知っている」が15.7%となっています。
- 性別の“男性”と年齢別の50歳以上で約2割、性別の“女性”と年齢別の30～49歳で約1割、年齢別の“20歳未満”と“20～29歳”では1割未満の方が、「知っている」と回答しています。

洲本市の人口推計結果の認知度

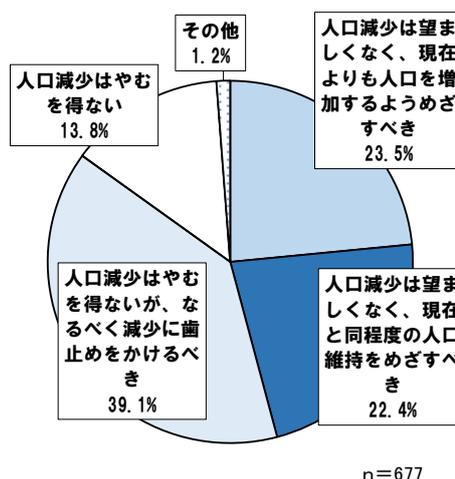


(3) 人口減少社会におけるまちづくり

問7. 洲本市の人口減少について【SA】

- 「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」が39.1%で最も多くなっています。
- 性別、年齢別ともに、「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」が最も多くなっています。

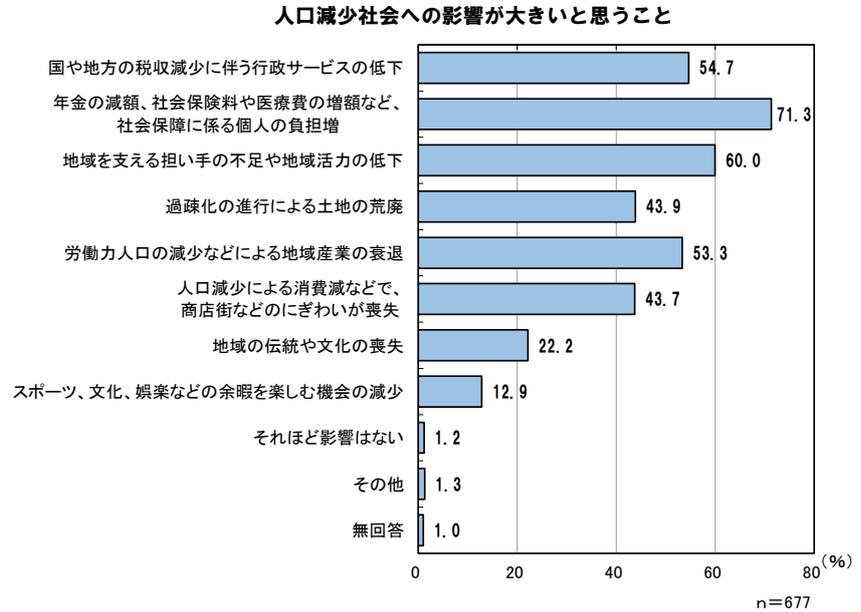
洲本市の人口減少について



問8. 人口減少社会への影響が大きいと思うこと【MA】

○「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」が71.3%で最も多く、次いで「地域を支える担い手の不足や地域活力の低下」が60.0%、「国や地方の税収減少に伴う行政サービスの低下」が54.7%となっています。

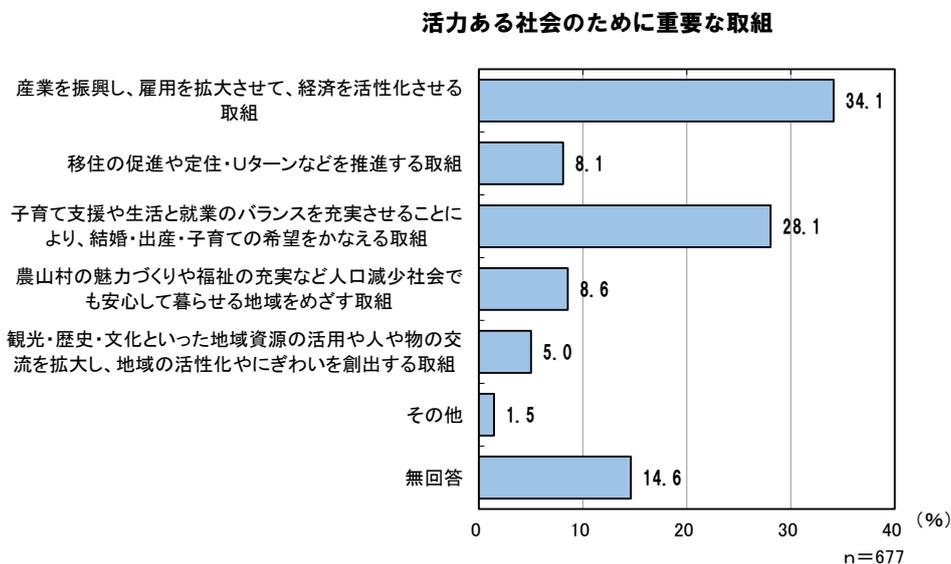
●年齢別にみると、“40～49歳”で「国や地方の税収減少に伴う行政サービスの低下」、他の年齢で「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」が最も多くなっています。



問9. 人口減少を克服するために最も重視すべき市が取り組むべきこと【SA】

○「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」が34.1%で最も多く、次いで「子育て支援や生活と就業のバランスを充実させることにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が28.1%となっています。

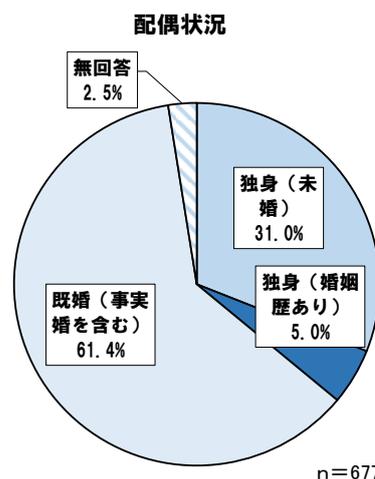
●性別の“女性”と年齢別の“20歳未満”、“30～39歳”で「子育て支援や生活と就業のバランスを充実させることにより、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」が最も多くなっています。



(4) 結婚について

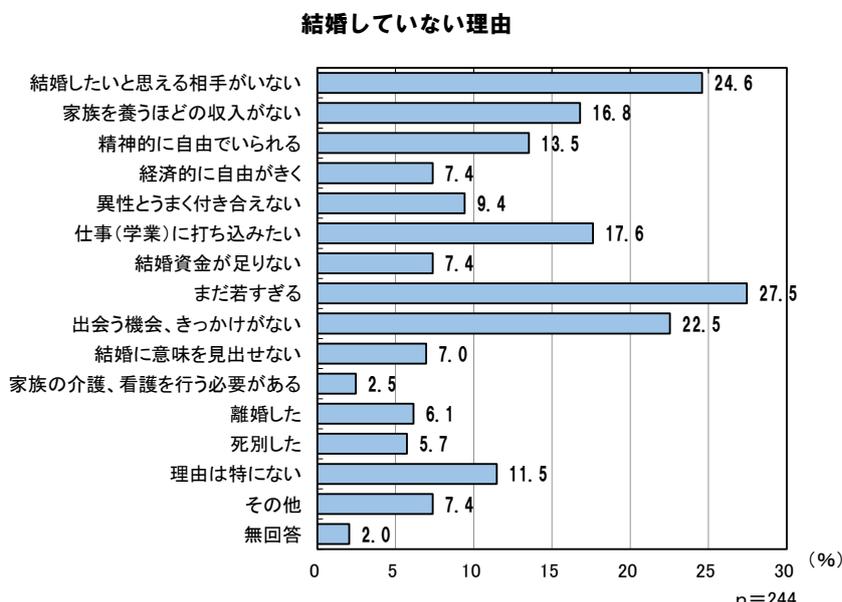
問10. 配偶状況【SA】

- 「既婚（事実婚を含む）」が過半数の61.4%となっています。
- 年齢別にみると、“20歳未満”で4.7%、“20～29歳”で17.5%、30歳以上で7割以上が「既婚（事実婚を含む）」となっています。



問10-1. 結婚していない理由(現在独身の方限定)【MA】

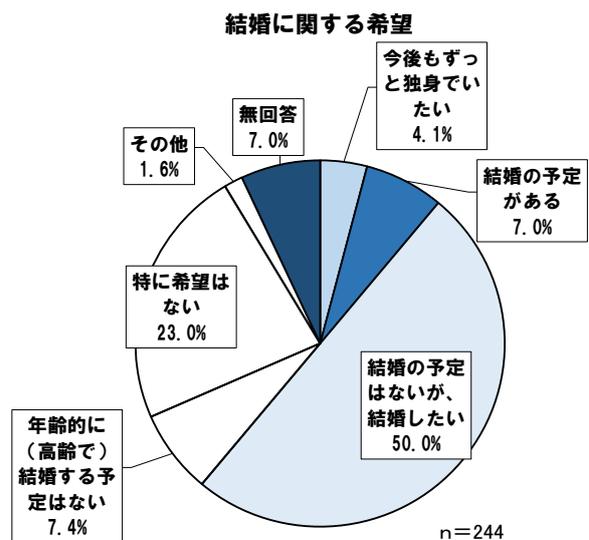
- 「まだ若すぎる」が27.5%で最も多く、次いで「結婚したいと思える相手がない」が24.6%となっています。
- 性別、年齢別（50歳未満）でみた理由は下表のとおりです。



	第1位	第2位	第3位
男性	・まだ若すぎる	・家族を養うほどの収入がない	・結婚したいと思える相手がない
女性	・まだ若すぎる ・結婚したいと思える相手がない	・出会う機会、きっかけがない	・仕事(学業)に打ち込みたい
20歳未満	・まだ若すぎる	・仕事(学業)に打ち込みたい	・結婚したいと思える相手がない
20～29歳	・まだ若すぎる ・結婚したいと思える相手がない	・出会う機会、きっかけがない	・家族を養うほどの収入がない
30～39歳	・結婚したいと思える相手がない	・出会う機会、きっかけがない	・家族を養うほどの収入がない
40～49歳	・出会う機会、きっかけがない	・結婚したいと思える相手がない	・精神的に自由でいられる

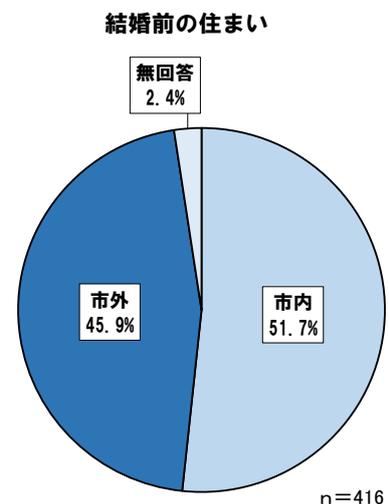
問10-2. 結婚に関する希望(現在独身の方限定)【SA】

- 「結婚の予定はないが、結婚したい」が50.0%で最も多くなっています。
- 年齢別(50歳未満)にみると、年齢があがるにつれて「結婚の予定はないが、結婚したい」方の割合が低くなり、「特に希望はない」方の割合が高くなる傾向にあります。



問10-3. 結婚前の住まい(現在既婚の方限定)【SA】

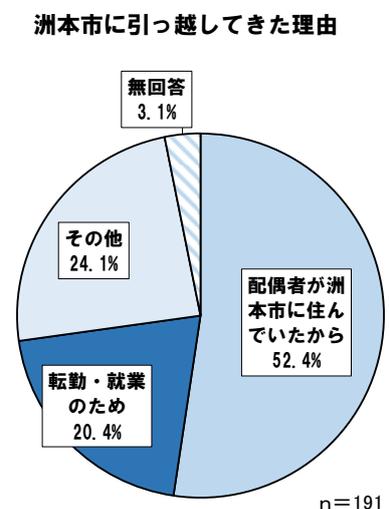
- 「市内」が51.7%、「市外」が45.9%となっています。
- 性別の“男性”と年齢別の“20歳未満”、50歳以上では「市内」、性別の“女性”と年齢別の20~49歳では「市外」が多くなっています。



問10-3-1. 洲本市に引っ越した理由

(現在既婚の方で結婚前に市外に在住していた方限定)【SA】

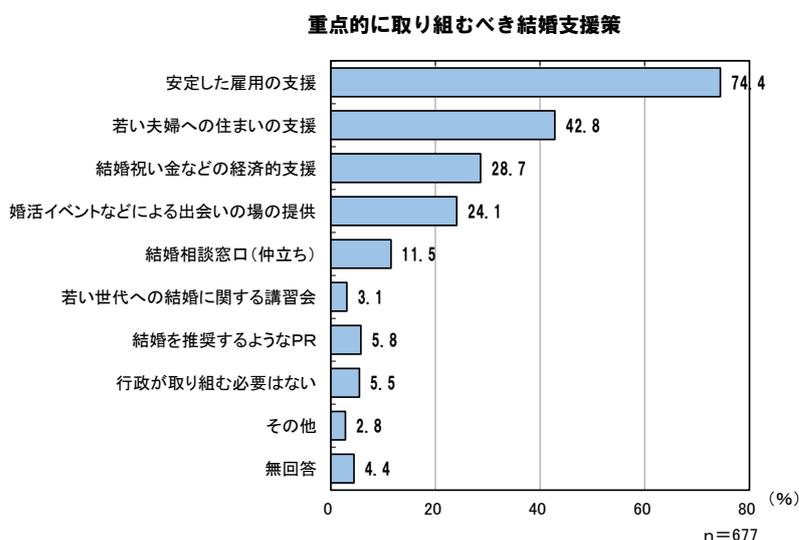
- 「配偶者が洲本市に住んでいたから」が52.4%で過半数となっています。
- 性別にみると、「配偶者が洲本市に住んでいたから」が、“男性”で30.9%、“女性”で62.9%となっています。



問11. 行政が重点的に取り組むべきだと思う結婚支援策【MA】

○「安定した雇用の支援」が74.4%で最も多く、次いで「若い夫婦への住まいの支援」が42.8%となっています。

●年齢別にみると、すべての年齢で「安定した雇用の支援」が最も多く、次いで「若い夫婦への住まいの支援」となっています。3番目に多くなっている施策は、20歳未満～39歳で「結婚祝い金などの経済的支援」、40～69歳で「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」、70歳以上で「結婚相談窓口(仲立ち)」となっています。



(5) 出産・育児について

問12. ～問14. 子ども数【SA】

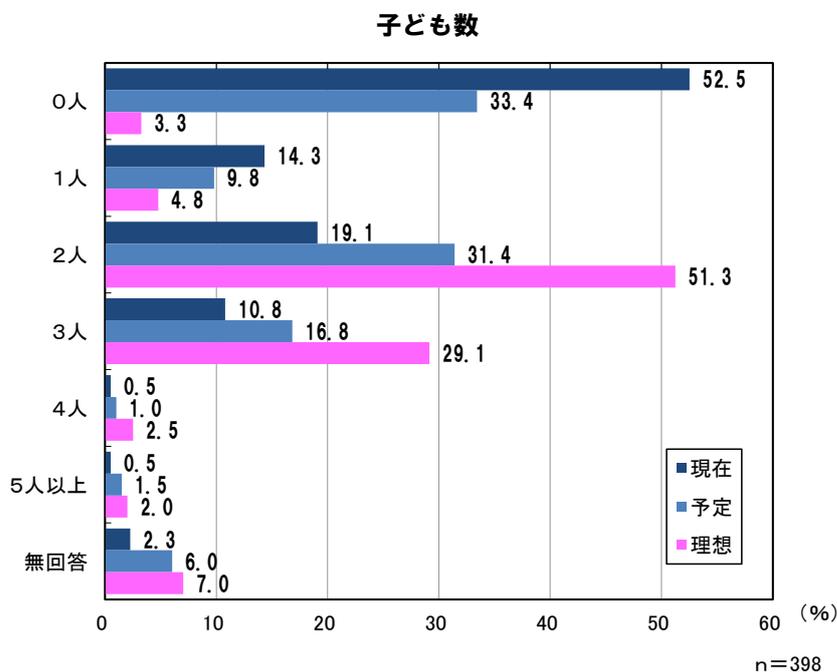
○20歳未満から49歳での現在の子ども数は「0人」が52.5%で最も多くなっています。

○同じく20歳未満から49歳での予定子ども数は「0人」が33.4%、理想子ども数は「2人」が51.3%で最も多くなっています。

●現在の子ども数を年齢別にみると、「40～49歳」で「2人」、20歳未満～39歳で「0人」が最も多くなっています。

●予定の子ども数を年齢別にみると、20歳未満～29歳で「0人」、30～49歳で「2人」が最も多くなっています。

●理想の子ども数を年齢別にみると、20歳未満～49歳すべての年齢で「2人」が最も多くなっています。

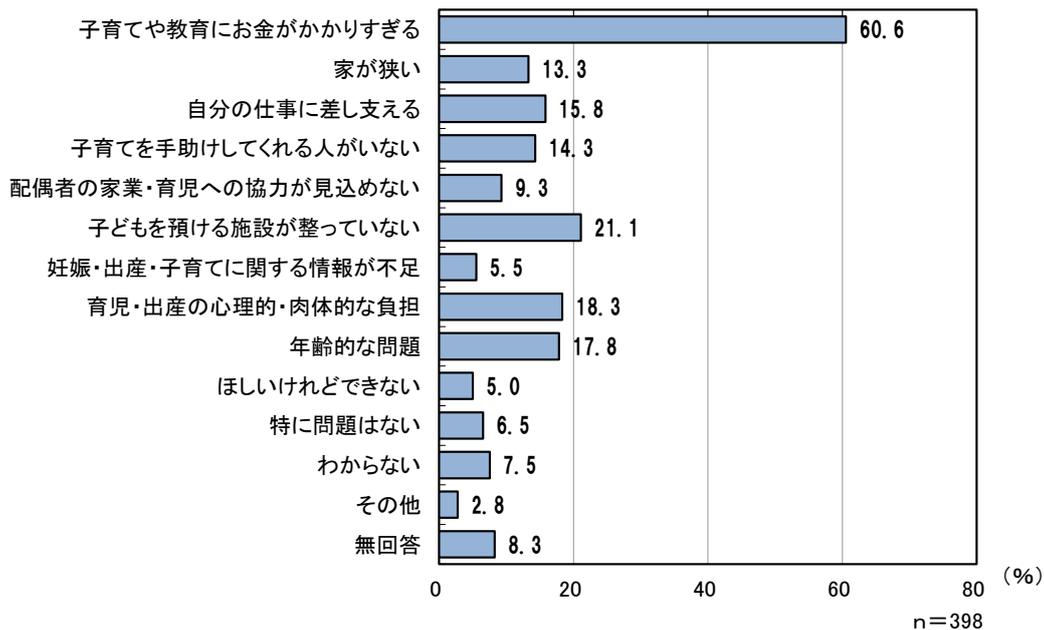


問15. 理想の子どもの数を持つための問題点【MA】

○20歳未満から49歳での理想の子どもの数を持つための問題点は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が60.6%で最も多く、次いで「子どもを預ける施設が整っていない」21.1%と「育児・出産の心理的・肉体的な負担」が18.3%となっています。

●20歳未満～49歳すべての年齢で「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多くなっています。

理想の子どもの数を持つための問題点

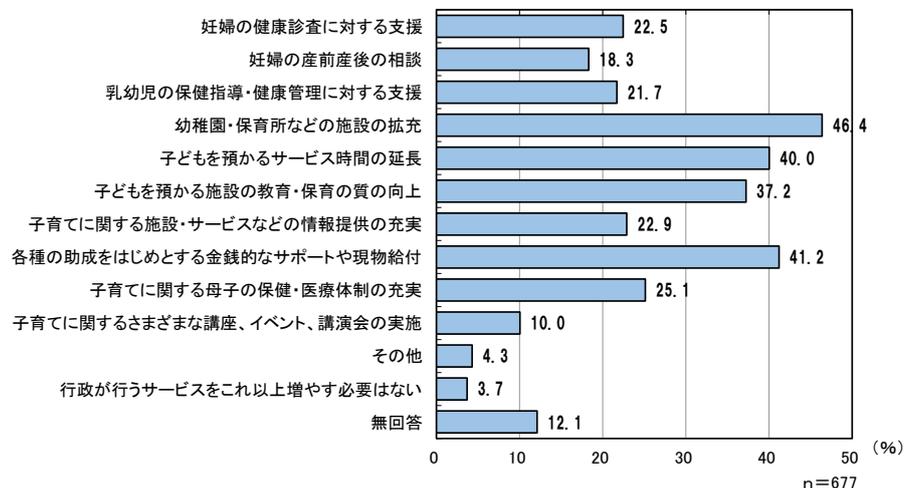


問16. 出産・育児に関するサービスで洲本市が最も力を入れるべきと思うこと【MA】

○「幼稚園・保育所などの施設の拡充」が46.4%で最も多く、次いで「各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が41.2%、「子どもを預かるサービス時間の延長」が40.0%となっています。

●年齢別にみると、20～39歳で「各種の助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」、他の年齢で「幼稚園・保育所などの施設の拡充」が最も多くなっています。

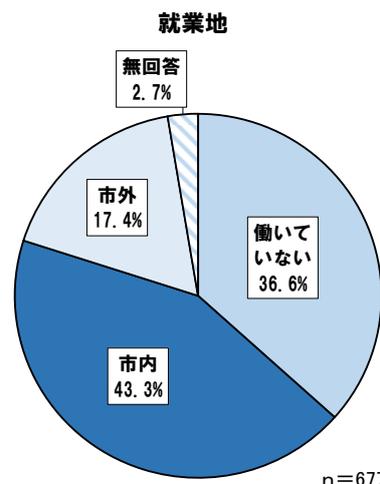
重点的に取り組むべき出産・育児サービス



(6) 働くことについて

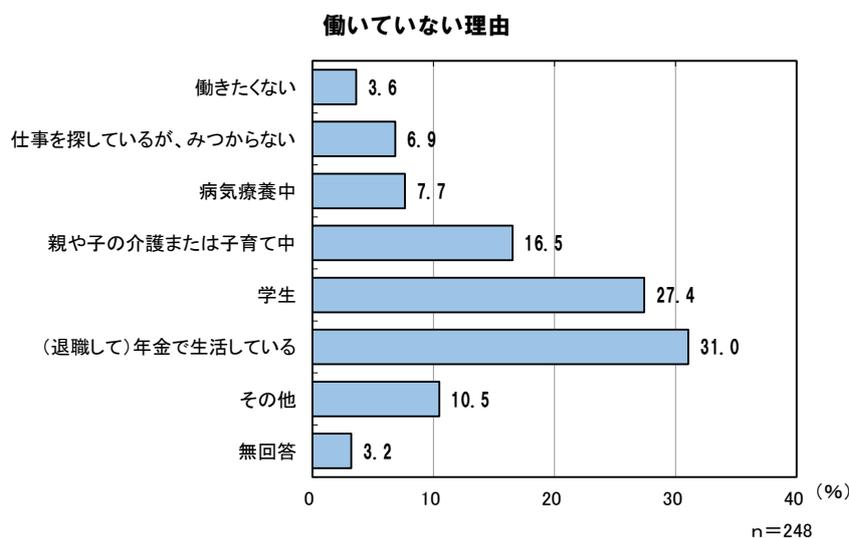
問17. 就業地【SA】

- 「市内」が43.3%で最も多く、次いで「働いていない」が36.6%、「市外」が17.4%の順となっています。
- 「働いていない」方のうち、20歳未満と60歳以上の合計割合が過半数となっています。
- 「働いていない」方を除くと、性別、年齢別ともに、「市内」で働いている方が多くなっています。20～49歳では「市外」で働いている方が2割程度います。



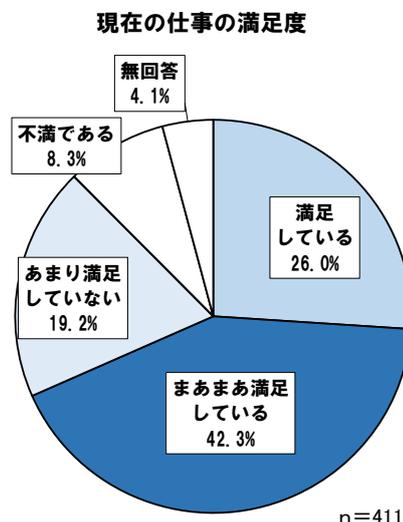
問17-1. 働いていない理由(現在働いていない方限定)【MA】

- 「(退職して)年金で生活している」が31.0%で最も多く、次いで「学生」が27.4%となっています。
- 性別にみると、“女性”で「親や子の介護または子育て中」が、“男性”に比べて多くなっています。



問17-2. 現在の仕事の満足度(現在働いている方限定)【SA】

- 「満足している」26.0%と「まあまあ満足している」42.3%を合わせると68.3%の方が『満足』、「あまり満足していない」19.2%と「不満である」8.3%を合わせると27.5%の方が『不満』となっています。
- 年齢別にみると、すべての年齢で『満足』が多くなっていますが、20～59歳で『不満』と感じている方が3割程度います。

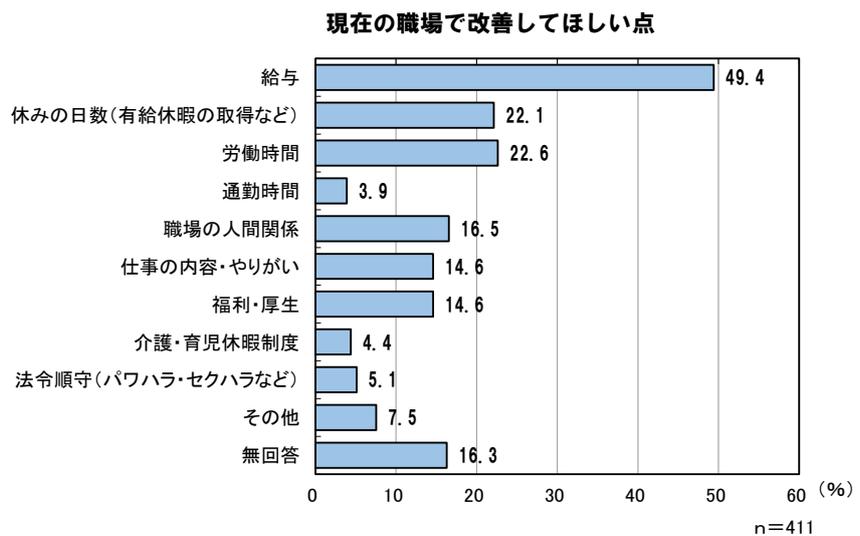


問17-3. 現在の職場で改善してほしい点(現在働いている方限定)【MA】

○「給与」が49.4%で最も多く、次いで「労働時間」が22.6%、「休みの日数(有給休暇の取得など)」が22.1%となっています。

●年齢別にみると、“20～29歳”で「法令順守(パワハラ・セクハラなど)」が他に比べ多くなっています。

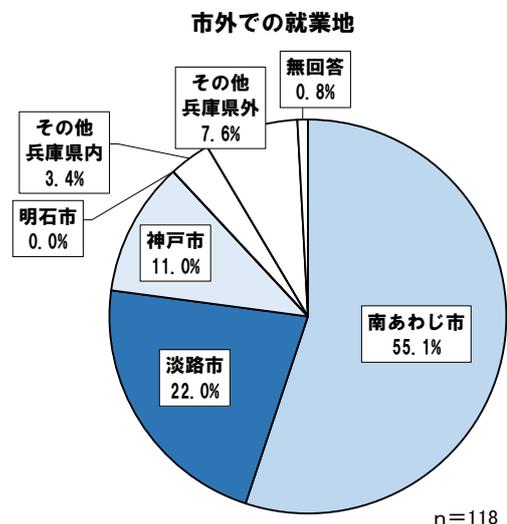
●男女別にみると、「給与」では、“男性”が54.7%、“女性”が44.5%と、“男性”が10%高くなっています。また、“男性”“女性”ともに、「休みの日数(有給休暇の取得など)」と「労働時間」が20%を超えています。



問17-4. 市外での就業地(現在市外で働いている方限定)【SA】

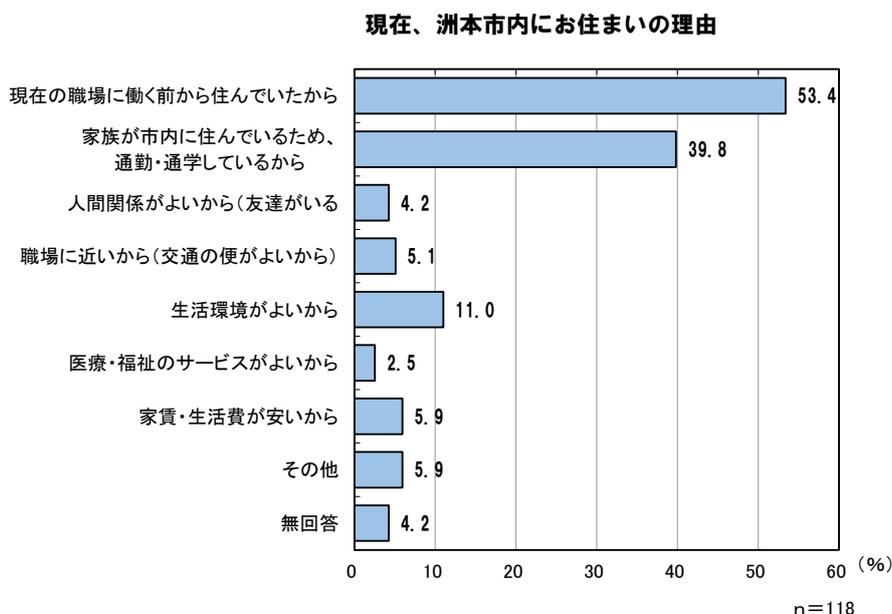
○「南あわじ市」が55.1%で最も多く、次いで「淡路市」が22.0%、「神戸市」が11.0%となっています。

●年齢別にみると、20歳以上では、「南あわじ市」がすべて過半数となっています。



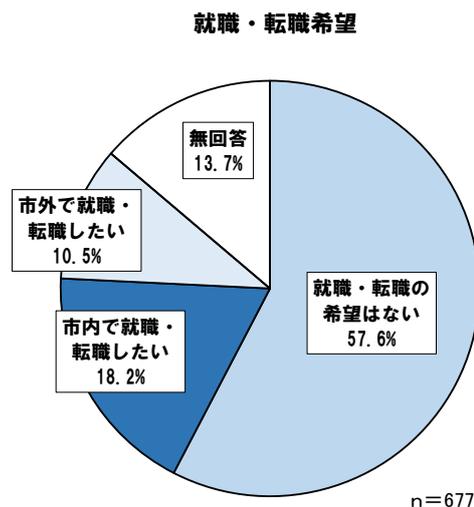
問17-5. 現在、洲本市内にお住まいの理由(現在市外で働いている方限定)【MA】

- 「現在の職場に働く前から住んでいたから」が53.4%で最も多く、次いで「家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから」が39.8%、「生活環境がよいから」が11.0%となっています。
- 年齢別にみると、20～39歳で「家族が市内に住んでいるため、通勤・通学しているから」、他の年齢で「現在の職場に働く前から住んでいたから」が最も多くなっています。



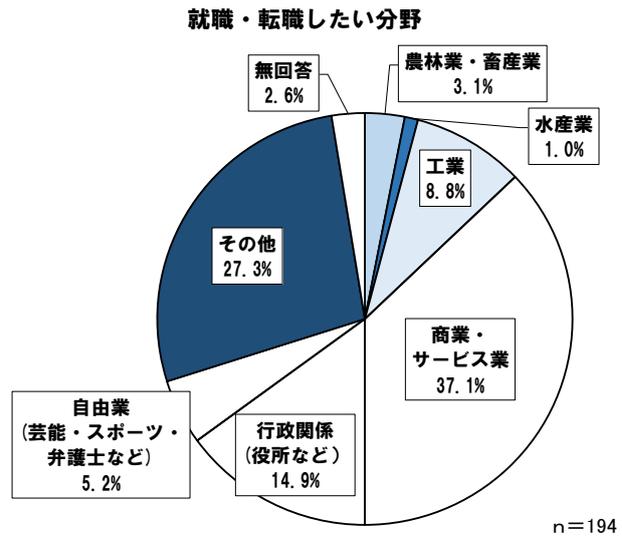
問18. 就職・転職希望【SA】

- 「就職・転職の希望はない」が57.6%で最も多く、次いで「市内で就職・転職したい」が18.2%、「市外で就職・転職したい」が10.5%となっています。
- 「就職・転職の希望はない」を含めず、年齢別にみると、“20歳未満”と“20～29歳”で「市外で就職・転職したい」が多くなっています。



問18-1. 就職・転職したい分野(就職・転職したい方限定)【SA】

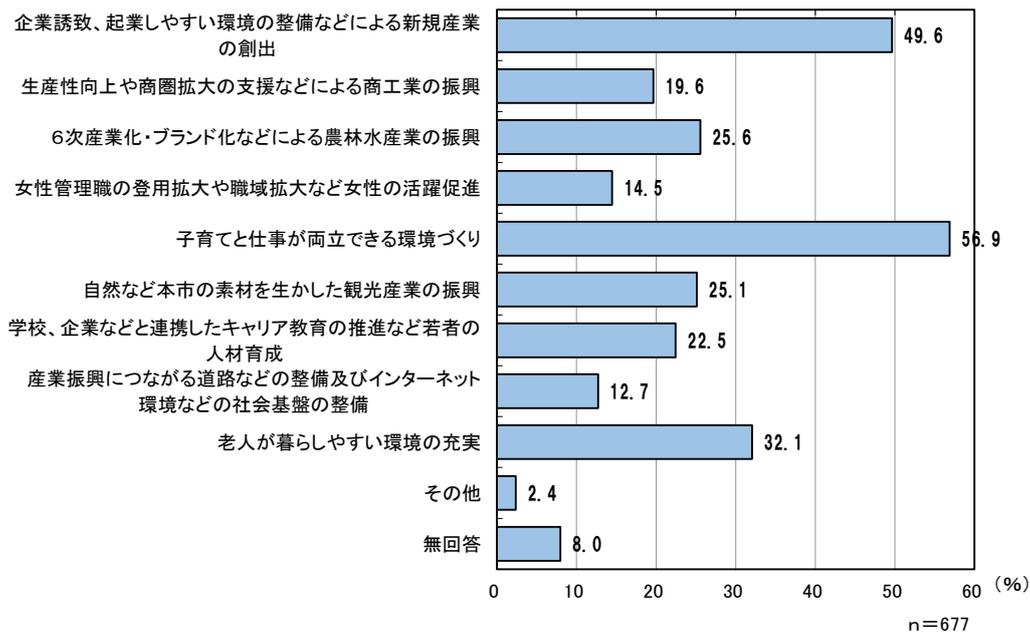
- 「商業・サービス業」が37.1%で最も多く、次いで「その他」が27.3%、「行政関係(役所など)」が14.9%となっています。
- その他の記述では、“医療・福祉関係”、“教育関係”、“わからない、決まっていない”などの記述が多くみられました。
- 年齢別にみると、“20歳未満”と“30～39歳”で「その他」、「60～69歳」で「行政関係(役所など)」、他の年齢で「商業・サービス業」が最も多くなっています。



問19. 地域経済の活性化のために力を入れるべき取組【MA】

- 「子育てと仕事が両立できる環境づくり」が56.9%で最も多く、次いで「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が49.6%となっています。
- 性別の“男性”と年齢別の50歳以上では「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」、性別の“女性”と年齢別の20歳未満～49歳では「子育てと仕事が両立できる環境づくり」が最も多くなっています。

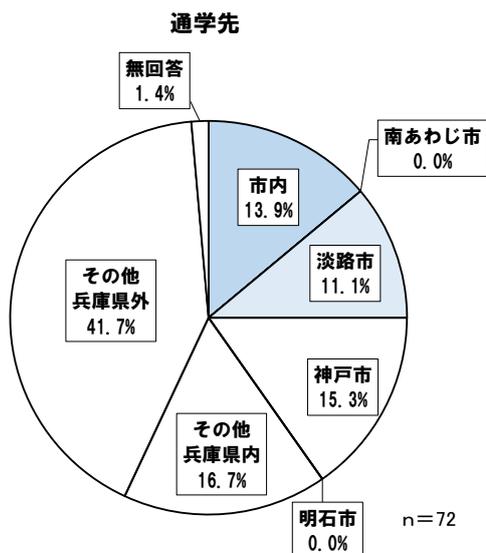
地域経済の活性化で力を入れるべき取組



(7) 今後の進学や就職について (学生限定)

問20. 通学先【SA】

- 「その他兵庫県外」が41.7%で最も多く、次いで「その他兵庫県内」が16.7%、「神戸市」が15.3%となっています。
- 「その他兵庫県外」と「その他兵庫県内」の内訳は下表のとおりです。
- 「その他兵庫県外」と回答した方は、性別にみると、“男性”で56.3%、“女性”で30.0%、年齢別の20歳未満～29歳では4割以上となっています。

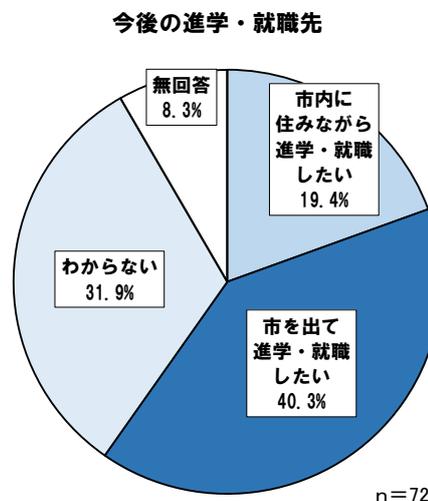


6. その他 兵庫県内	件数
神戸市	4
西宮市	2
尼崎市	2
三田市	1
赤穂市	1
宝塚市	1
豊岡市	1
合計	12

7. その他 兵庫県外	件数
大阪府	10
京都府	6
徳島県	4
岡山県	3
京都市	1
高知県	1
三重県	1
滋賀県	1
東京都	1
奈良県	1
無回答	1
合計	30

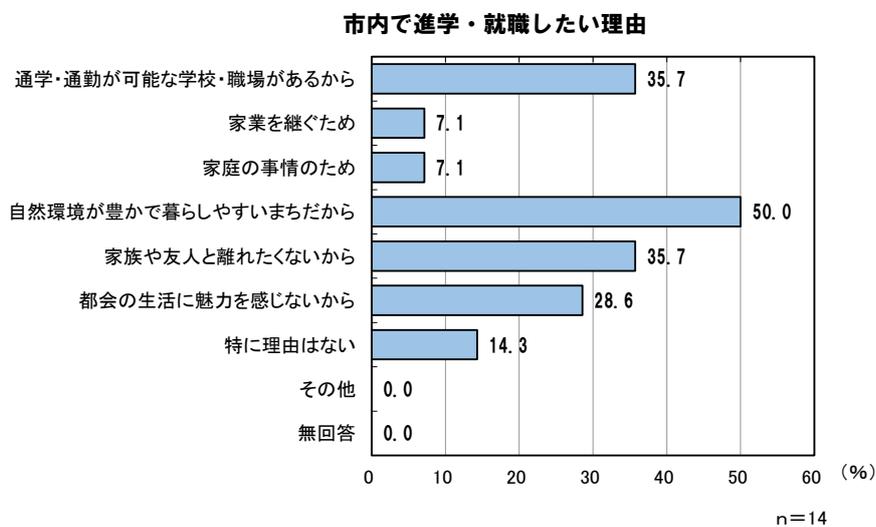
問21. 今後の進学や就職【SA】

- 「市を出て進学・就職したい」が40.3%で最も多く、次いで「市内に住みながら進学・就職したい」が19.4%となっています。
- 性別、年齢別ともに「市を出て進学・就職したい」が最も多くなっていますが、年齢別の“20歳未満”で「わからない」、「20～29歳”で「市内に住みながら進学・就職したい」が3割程度います。



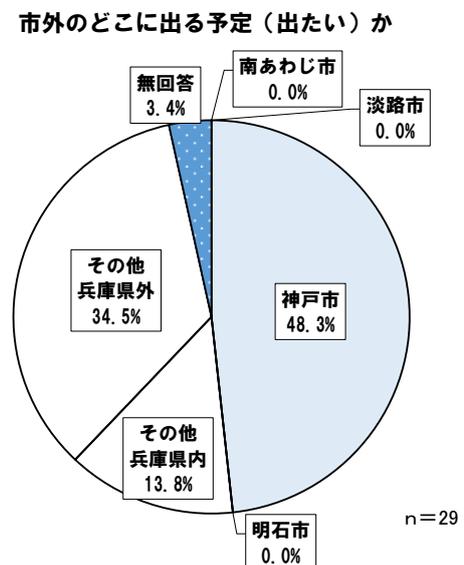
問21-1. 市内で進学・就職したい理由(市内に住みながら進学・就職したい方限定)【MA】

- 「自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから」が50.0%で最も多く、次いで「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」と「家族や友人と離れたくないから」が35.7%となっています。
- 性別にみると、“男性”で「通学・通勤が可能な学校・職場があるから」「自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから」「都会の生活に魅力を感じないから」がすべて37.5%、“女性”では「自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから」が66.7%で最も多くなっています。
- 年齢別にみると、“20歳未満”で「自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから」と「都会の生活に魅力を感じないから」がいずれも33.3%、“20～29歳”で「自然環境が豊かで暮らしやすいまちだから」と「家族や友人と離れたくないから」がいずれも62.5%で最も多くなっています。



問21-2. 市外のどこに出る予定(出たい)か(市を出て進学・就職したい方限定)【SA】

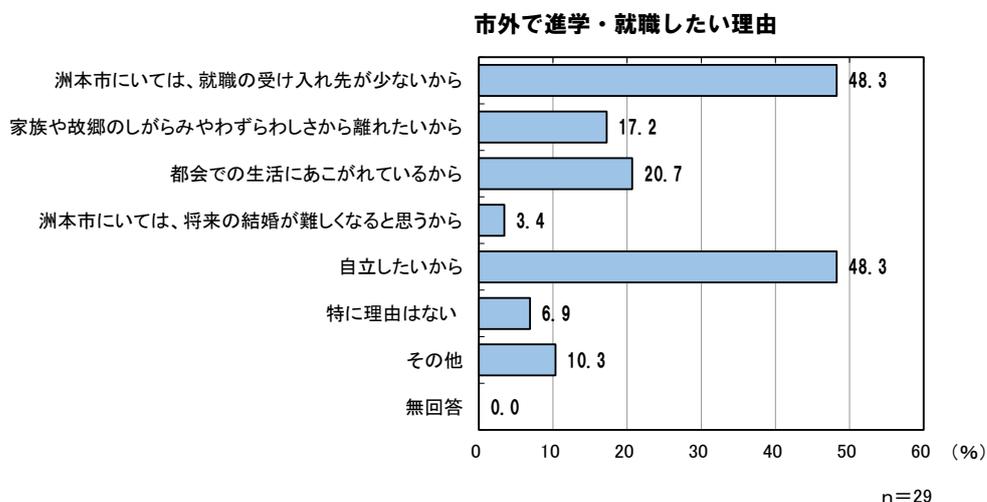
- 「神戸市」が48.3%で最も多く、次いで「その他兵庫県外」が34.5%、「その他兵庫県内」が13.8%となっています。
- 「その他兵庫県外」の内訳は、大阪府2件、東京都3件、徳島県1件となっています。
- 「その他兵庫県内」の内訳は、尼崎市2件、西宮市1件となっています。
- 性別にみると、“男性”で「神戸市」と「その他兵庫県外」がいずれも46.2%、“女性”で「神戸市」が50.0%で最も多くなっています。
- 年齢別にみると、“20歳未満”で「その他兵庫県外」が47.4%、“20～29歳”で「神戸市」が66.7%、“30～39歳”で「その他兵庫県内」が100.0%で最も多くなっています。



問21-3. 市外で進学・就職したい理由(市を出て進学・就職したい方限定)【MA】

○「洲本市においては、就職の受け入れ先が少ないから」と「自立したいから」が48.3%で最も多くなっています。

- 性別、年齢別ともに「洲本市においては、就職の受け入れ先が少ないから」と「自立したいから」が4割以上となっています。



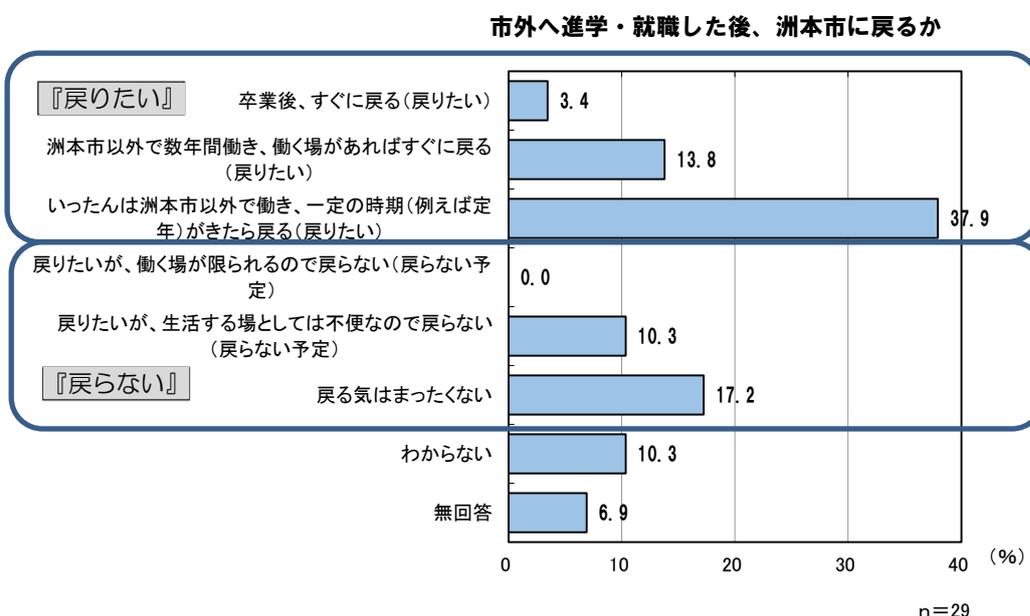
問21-4. 将来的に市外で進学・就職した後、洲本市に戻ってくるか

(市を出て進学・就職したい方限定)【SA】

○「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば定年)がきたら戻る(戻りたい)」が37.9%で最も多く、次いで「戻る気はまったくない」が17.2%となっています。

- 「卒業後、すぐに戻る(戻りたい)」と「洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)」と「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば定年)がきたら戻る(戻りたい)」を合わせると過半数が『戻りたい』と回答しています。
- 性別の“女性”で「卒業後、すぐに戻りたい」と「洲本市以外で数年間働き、働く場があればすぐに戻る(戻りたい)」と「いったんは洲本市以外で働き、一定の時期(例えば定年)がきたら戻る(戻りたい)」を合わせた『戻りたい』割合と、「戻りたいが、生活する場としては不便なので戻らない(戻らない予定)」と「戻る気はまったくない」を合わせた『戻らない』割合が同じ43.8%となっています。

- “男性”、20歳未満~39歳で『戻りたい』が過半数となっています。



問22. これからのまちづくりに対する自由意見

○分野別の主な意見（複数意見）は、次の通りです。

（市のプロモーション・PR活動）

- ・ 洲本市を外に向かって、もっとPRすべきではないか
- ・ 情報発信が不足している

（企業誘致）

- ・ 働ける場所の増加・確保を望む（期待は大きい）
- ・ 環境面に配慮した事業者の誘致が理想（例：精密機器メーカー）

（起業・創業支援）

- ・ 若者や女性の起業をもっと支援すべき（現状は少ない）

（まち歩き、ツーリズム）

- ・ もっと観光分野に力を入れてはいかがか

（今ある「地域資源」の有効活用）

- ・ レトロなまち歩きのようなイベントをもっと増やしてほしい
- ・ 今の情緒あるまち（なみ）の雰囲気を残しつつ、新しい要素を取り入れてほしい

（空き家の改修・活用）

- ・ 増加している空き家を改修し、有効に活用してほしい（田舎暮らしを推進する上で、都市部に向けたPRをしてはどうか）
- ・ 空き家を活用して、新規にビジネスを始めるように促してはいかがか

（自然・環境）

- ・ 自然環境がいい（次世代へ残していきたい）
- ・ 海・山・川のすばらしさをもっとPRしてはいかがか

（保育料・税金）

- ・ 保育料が高いと感じている。保育料の無料化、または、低料金化を実現してほしい
- ・ 税金が高いと感じている。もっと福祉や子育て支援などに使ってほしい

（行財政改革）

- ・ 人口減少社会の到来に合わせて、老朽化した公共施設の見直しや統廃合が必要ではないか
- ・ 市職員が多すぎる。もっと削減すべき

（社会基盤整備）

- ・ 痛んでいたり、狭隘な道路の補修・整備が必要
- ・ 自転車専用レーンの設置や歩道の拡幅を望む
- ・ 淡路島が「車社会」であることを前提に、多くの無料駐車スペースの確保をお願いしたい

(公園整備)

- ・ (大型の) 遊び場をつくってほしい (そうすれば、人と人が出会う機会も増える)
- ・ 子どもたちがのびのびと過ごすことができる公園をもっと作ってほしい (遊ぶ場所が少ない)

(公共交通)

- ・ バスの便数を増やしてほしい
- ・ 観光面でのバス利用も検討してはかがか

(高速道路の料金値下げ)

- ・ 高速道路 (架橋) の通行料をもっと値下げするように働きかけるべきである

(港の活用・活性化)

- ・ 周囲が海なので、もっと港を活用してはかがか
- ・ 和歌山方面とのアクセス強化を望む

(安全・安心)

- ・ 南海トラフ巨大地震などに備え、さらなる災害対策が必要

(住みやすいまちづくり)

- ・ お年寄りに限らず、誰もが住みやすいまちにしてほしい
- ・ 移住者への配慮だけでなく、現在住んでいる人が「これからも住み続けられる環境づくり」が必要ではないか

(島内1市)

- ・ 早く3市の間で合併協議を進め、島内で1市になってほしい